

国土交通省道路局長 様



平成19年 5月 7日
熱海市長 齊藤 栄



道路整備の中期計画の作成に当たって

当市では、現在、静岡県内の沼津市、長泉町、三島市、函南町また、神奈川県内の小田原市、真鶴町、湯河原町の四市四町と伊豆湘南道路建設促進期成同盟会を平成10年8月に設立し、活動を進めて参りました。

当圏域は商業都市と観光都市が連なり多様な産業、文化が栄えております。現在、第2東名自動車道、東名沼津ICと接続する東駿河湾環状道路など、着々と高速自動車網の整備が進められております。

このような状況下において、伊豆湘南道路は昭和38年頃より国道1号の冬季凍結対策として、小田原沼津道路として構想されて参りましたが、役割、効果などを検証した結果、伊豆湘南道路として捉え、神奈川県西部地域と静岡県東部地域の県際を結ぶ広域道路としても、また、近い将来発生が予想されている地震、噴火等の自然災害時の緊急輸送路及び避難路としても重要な役割を果たす事が期待されております。

当初、高規格道路での整備を検討しておりましたが、昨今の経済情勢や自然災害に対応する緊急性等を勘案し、既存道路を最大限利用し、早期に実現可能な方法を検討しております。

また、市内の中山間部を横断し、伊東市の宇佐美地区とを結ぶ中部横断道路の建設も、当市の発展には欠かすことの出来ない路線であります。伊豆半島東側を通る国道は、急峻な海岸線に沿う形で建設されており、夏期等には慢性的な交通渋滞で知られておりますが、改良拡幅はなかなか困難な状況であり、自然災害等で通行不能となった場合の代替路線としての性格を有する当路線の整備促進を早急に進めたいと考えております。

一方、生活道路に目を向ければ、市道の実延長269,762.5mの内123,663.7m(45%)が未改良であり、救急車も満足に通行できない狭隘な道路が多数存在しております。また、当市は、観光立市でもあり、市民・観光客のために「歩いて楽しいまちづくり」を進めるにあたり、歩道幅員の調査をした結果、市内の歩道延長29,851mの内、歩道幅員1.5m以下が23,291.9m(78%)と言う状況であり、今後、更に市内の生活道路等の改良、拡幅、舗装修繕に多額の費用が予想される状況であります。

以上のことから、平成19年度中に作成される、道路整備の中期計画のなかで、上記伊豆湘南道路の早期実現、中部横断道路の整備促進、市内生活道路等の改良等に係る補助制度の反映をお願いします。また、観光立市である当市にとって道路を含めてまちなみは重要な観光資源であり、道路景観についてのご支援も頂きたいと思っております。